

1. 本研究の経過

(1) 国土地理協会の助成の継続

2005 年度より 5 年間の予定で継続されている財団法人国土地理協会の外邦図研究グループへの助成をうけた (2009 年度も助成金額は 200 万円)。

(2) 科学研究費の継続

2007 年度より 3 年間の予定で採択された科学研究費 (基盤研究 [A]) 「アジア太平洋地域の環境モニタリングにむけた地図・空中写真・気象観測資料の集成」が、2009 年度も継続された (代表者: 小林茂、2009 年度の直接経費: 810 万円)。

(3) データベース科研の採択

科学研究費、研究成果公開促進費 (データベース) 「外邦図デジタルアーカイブ」 (代表者: 杉浦和子・京都大) が採択された。2005・2007 年度に続く 3 度目の採択である。今回の目標は、東北大学の外邦図による、すでに公開中の「外邦図デジタルアーカイブ」に未収録の図で、主に京都大学・お茶の水女子大学が所蔵するもののスキャンをすすめ、既存のデータベースに統合することであり、これで大学が所蔵する外邦図のほとんどが、「外邦図デジタルアーカイブ」に収録される見通しがえられた。なお「外邦図デジタルアーカイブ」は、<http://dbs.library.tohoku.ac.jp/gaihozu/>により参照いただきたい。

(4) 第 11 回外邦図研究会を開催

2009 年 5 月 23 日 (土) に、お茶の水女子大学文教育学部 1 号館第 1 会議室において第 11 回外邦図研究会を開催した。以下に示す 5 件の報告があり、活発な議論が行われた。その後、懇親会 (日本海庄や茗荷谷店) が開かれ、盛会であった。

出席者 (敬称略、五十音順):

熱田昌大、安藤公人、石原 潤、牛越国昭、大浦瑞代、太田喜美子、大槻 涼、加藤敏雄、金窪敏知、亀井啓一郎、金 美英、河野泰之、小林 茂、小林雪美、小室哲雄、佐藤礼次、清水靖夫、鈴木

純子、関根良平、高橋健太郎、沈 克尼、波江彰彦、芳賀 啓、長谷川敏雄、福田智正、古市剛久、馬 平、松田倫明、水野 勲、源 昌久、宮澤 仁、村山良之、森田純平、山近久美子、山本和浩、山本健太、山本晴彦、ヨサファット・テトオコ・スリ・スマンティヨ、渡辺信孝、渡辺理絵

①金 美英 (大阪大・博士前期課程修了生) 「日露戦争時の戦場で作製・使用されたと推定される地図について」

この報告は、『外邦図研究ニューズレター』No.6 の 10~46 頁に掲載された同タイトルの報告をもとにしたものである。大阪大学文学研究科人文地理学教室所蔵の日露戦争関係地図について検討した。これらを『明治卅七八年日露戦史』所収の地図や旧満州 5 万分 1 地形図と比較し、日露戦争関係地図にみられる測量の様式、測図記号や地名記載などの特色について報告した (写真 1)。



写真 1 金美英氏による発表

この発表に対して、まず金窪敏知氏 (日本国際地図学会名誉会員) からコメントをいただいた (写真 2)。金窪氏は、この発表題目とよく似たロシア人学者による論文があることを指摘し、あわせてその内容の概要を紹介した。これはヴェ・ヴェ・グルシュコフ教授の「日露戦争の戦場の地図作製」で、19 世紀末から日露戦争直前までにロシア軍がどのように満洲地域の地図作製にかかわったかを論じているものである (この論文については、本号 9-27 頁を参照)。

次に、この発表で検討した地図の入手過程についての質問があり、地図はインターネットオークショ



写真2 金窪敏知氏によるコメント

ンでまとめて購入したものであり、もともとの所有者は不明であると回答した。また、地図における測量者の記載に関する質問に対しては、「孤楡樹附近目算並記憶測図」(5万分1)に「第十師団第三十九聯隊第二中隊長歩兵中尉村岡俊太郎」と作製者が記されていることを例示した。

さらに、牛越国昭氏は、日清戦争時には先に戦時測量班が現地に展開し、1894年秋になって臨時測図部が創設されたのに対し、日露戦争時には戦時測量班は組織されず、臨時測図部と各部隊に配置された測量班がそれぞれ地図作製を行っていたことを指摘した。

②熱田昌大(駒澤大・学)「駒澤大学における外邦図の整理状態について」

駒澤大学では、2004年度に有志の学部学生が集まって組織された「駒澤大学マップアーカイブス(外邦図研究会)」によって外邦図の整理作業が継続されており、その作業状況について報告した(写真3)。また、作成中の『駒澤大学図書館所蔵 外邦図目録』の一部が配付された。

この発表に対して、高橋健太郎氏(駒澤大)からは、東北大・京大・お茶大の目録を参考にして目録を作成していること、東北大・お茶大にない地図を「×」で示しており、両大学に所蔵がないものがわかることが補足された。太田喜美子氏(駒澤大)からは、駒澤大学で外邦図の整理が始まったきっかけやその後の経緯についての報告があった。駒澤大学ではかつて所蔵していた外邦図の一部が燃やされてしまい、今も外邦図への理解は十分とはいえない



写真3 熱田昌大氏による発表

め、コンスタントに展示をするなどして学術資料として重要であることを訴える必要性が指摘された。外邦図整理作業のスタートメンバーである大槻涼氏(首都大・院)は、時間がかかっても学生の手でやろうとする点が駒澤大学の外邦図整理作業の特色であることを説明した。

また、先に目録を作成した東北大学関係者からの意見として、村山良之氏(山形大)や関根良平氏(東北大)は、駒澤大学で作成中の目録はデジタルアーカイブ事業における外邦図のスキャン作業やアーカイブの情報更新を進める上で重要な情報源であり、大学間、また、国立国会図書館との情報共有化を図ることを要望した。

③小林雪美(国際子ども図書館資料情報課)「国立国会図書館の書誌データから見た外邦図」

長期間国立国会図書館地図室に勤務された小林氏より、同館のNDL-OPACにおける外邦図の書誌データの追加・更新、データ公開件数、書誌データの作成・公開の基準、主なデータ項目と特徴について報告された(写真4)。また、NDL-OPACにおける外邦図の検索方法について説明された。さらに、2009年5月に外国地形図の索引図が公開され、外邦図の索引図も年度内の公開を目指していることが報告された。

この報告に対して、村山良之氏(山形大)や山本健太氏(日本学術振興会特別研究員・東京大)からは、東北大学でのデジタルアーカイブ作業の経験から緯度・経度情報の重要性を指摘し、NDL-OPACのデータに緯度・経度が追加されることを要望した。



写真4 小林雪美氏による発表

また、索引図の作成過程に関する質問に対し、国立国会図書館の索引図は **Illustrator** や **Photoshop** を用いて作成されているとの回答があった。さらに、河野泰之氏（京大）からは外邦図の緯度・経度の特定や他の地図との重ね合わせに際しての精度について質問があり、これに対する関根良平氏（東北大）の回答として、東北大学では緯度経度の記入のない地図について **Google Earth** などを用いて「分」レベルで特定することを検討しているが、内陸部の地図などは難しいことが述べられた。

そのほか、書誌データにおける難読文字やフォントのない文字の扱いや、国立国会図書館所蔵の外邦図のデジタル化・公開についても触れられた。

④沈 克尼（寧夏社会科学院特選研究員・寧夏回族自治区民政庁副庁長）「歴史上日本編制的中国兵要地誌及地形図概説」

日本が作成した中国の兵要地誌に関する報告である。東亜同文会や東亜同文書院を通じ、旅行や留学と称し情報収集して刊行した『支那地誌』、『満州地誌』、『支那省別全誌』等、また、参謀本部が編纂した『兵要地誌概要』、地理学者や満鉄など参謀本部以外が作成した地誌などについて詳細に検討した結果を報告した。また、中国での兵要地誌作成に携わった岡本寧次の回想録や、中国の地形図、日本軍の測量教材についても報告があった。なお、高橋健太郎氏（駒澤大）が発表および質疑応答の通訳を務めた(写真5)。

この報告に対して、まず山本晴彦氏（山口大）からは、気象学の立場から、兵要地誌には実測に基づ



写真5 沈克尼氏による発表（右）
通訳を担当した高橋健太郎氏（左）

く気象・水文に関する詳細な記載があり興味深いというコメントがあった。次に、戦中に中国が作製した地図が現在どのような資料状態にあるのか、オープンにされているのかという質問があった。これに対する回答として、地図は文書館や測量局で管理されており、民間に出回っているものは非常に少ないこと、また、デジタル化の計画も聞いたことがないこと、そして、現在の中国は都市化や地域の変化が激しく、地図史・測量史・歴史の研究者以外ではあまり外邦図に対する関心をもっていないことが述べられた。

さらに、石原潤氏（奈良大）は、『支那省別全誌』に対する中国と日本の研究者の評価が異なる可能性があることをコメントした。また、牛越国昭氏は、民間による地誌調査の必要性が背景にあり東亜同文書院の母体である日清貿易研究所が設立されたことや、東亜同文書院が卒業旅行と称して学生を中国に行かせ、収集した情報を卒業論文として提出させていたことを述べた。これを受けて沈氏は、『支那省別全誌』は中国で初めて近代地理学的手法によって著された書物であること、また、『支那省別全誌』は記載内容が非常に詳細であり、参謀本部はその中の必要な部分を参照して兵要地誌を編集したのではないかと応答した。

⑤古市剛久（京大）「(報告) ミャンマー国サイクロン・ナルギス関連情報ウェブサイトにおける外邦図の提供」

2008年5月に発生し、ミャンマーに甚大な被害



写真6 古市剛久氏による発表

をもたらしたサイクロン・ナルギスに関して、京都大学東南アジア研究所は関連情報を提供するウェブサイトを作成・公開した。その1コンテンツとして外邦図が提供されたことについての報告である(写真6)。

この報告に対して、まずミャンマー国内における地図の管理体制や地図の使用許可申請について質問があった。これに対し、地図の管理は厳しく一般には入手困難であること、正式なルートでは許可されないのではないかとということ、古市氏は現地で地形調査の許可を得てその関連で地形図を入手したが、地形図自体の使用許可は得ていないことが回答された。

また、山本晴彦氏(山口大)からは、防災への活用という観点から、外邦図を通じて地域の変遷をたどり、それと現在の住宅地などの土地利用を対照させることによって、高潮災害などの防災・減災に生かせるのではないかとという提言があった。

最後に、河野泰之氏(京都大)は、他国のデータの公開に関連する話として、ウイリアム・ハント・コレクションを紹介した。これは、第二次世界大戦中・戦後にイギリス空軍が撮影した東南アジアの空中写真集である。東南アジア研究所が購入・デジタル化し、公開の是非を議論していたところ、空中写真の場所の同定を依頼していたタイ人の客員研究員が自国で全データをホームページに掲載してしまったこと、しかしながら、その中にはミャンマーのデータも含まれているが、今のところミャンマーからの抗議は来ていないといった話題を提供した。

(5) データベース科研による外邦図デジタルアーカイブ充実に向けた打ち合わせ

現在の外邦図デジタルアーカイブは、東北大学所蔵の外邦図の画像で構築されている。データベース科研により、京都大学(文学研究科地理学教室・総合博物館)およびお茶の水女子大学が所蔵する、未収録の外邦図のスキヤニングを進めるため、2009年5月25日(月)に京大総合博物館地図室で打ち合わせを行った。杉浦(田中)和子(京都大)、宮澤 仁(お茶大)、関根良平(東北大)、上杉和央(京都府立大)、南都奈緒子(京大総合博物館)にくわえ、小林茂(大阪大)、波江彰彦(大阪大)が参加し、スキヤンする外邦図の抽出、概数、スキヤンのための見積もりに関連する仕様などについて検討した。

(6) 人間文化機構情報資源共有化研究会での発表

大学共同利用機関、人間文化機構の情報資源共有化研究会(第2回)が2009年7月16日(木)に国文学研究資料館で開催された。テーマは「諸機関・諸プロジェクトにおける研究資源情報化と相互連携の可能性I」で、担当理事の石上英一氏(東京大)の挨拶のあと、5つの発表が行われ、小林茂(大阪大)・山本健太(日本学術振興会特別研究員・東京大)が「外邦図研究と外邦図デジタルアーカイブの構築」と題する発表を行った(この発表については、本号41-50頁を参照)。

(7) 地域研究コンソーシアムの情報資源共有化研究会・地域情報学研究会等がオーガナイズしたワークショップでの発表

地域研究コンソーシアムの情報資源共有化研究会や地域情報学研究会などがオーガナイズする研究会が、「地図情報共有化のために」をテーマに、2009年11月8日(日)に京都大学稲森記念館大会議室で開催された。4つの発表が行われ、その最初に小林茂(大阪大)・山本健太(日本学術振興会特別研究員・東京大)が「アジア太平洋地域の環境資料としての外邦図:外邦図デジタルアーカイブの構築とその利用」と題する発表を行った(写真7)。また柴山守氏(京都大)の「京大東南ア研の所蔵地図資料」と題する発表もあわせて、杉山晃一氏(駿河台大)・藤井毅氏

(東京外大)・山本順一氏(桃山学院大)のコメントをうけた。



写真7 山本健太氏による発表

(8) 日本国際地図学会の特別賞が外邦図研究グループに授与された

2010年2月27日(土)、日本国際地図学会総会(於日本地図センター)で、同学会特別賞が外邦図研究グループに授与された(本号冒頭参照)。

(9) 『京都大学総合博物館収蔵 外邦図目録』第2版の刊行

今回のデータベース科研による外邦図のスキャンにともなって、2005年3月に刊行された『京都大学総合博物館収蔵 外邦図目録』の書誌記載に修正すべき点が見つかったこと、また新たに120点の未収録の外邦図が発見されたこと、さらにこの目録の余部がなくなり、外部からの寄贈要請にこたえられないという事情を考慮し、新たにより充実した『京都大学総合博物館収蔵 外邦図目録』第2版を刊行した。

(10) その他の活動

①2009年5月24日(日)、第11回外邦図研究会で発表していただいた沈克尼氏と馬平氏(中国、寧夏社会科学院、研究員)が、高橋健太郎氏(駒澤大)にともなわれて大阪大学文学研究科人文地理学研究室に来訪し、それが所蔵する外邦図ならびに兵要地誌を閲覧した。小林茂が案内した。

②2009年7月4日(土)、東京神田の東京古書会館で行われた「明治古典会七夕古書大入札会」下見展観で外邦図を見学した(J.T. スリ・スマンティヨ[千葉大]、加藤敏雄[科学書院]、小林茂)。また国立国会図書館憲政資料室で、大山巖文庫所蔵の外邦図の調査を行った(小林茂)。

③2009年7月17日(金)、国立公文書館で、明治期日本軍作製の、中国大陸北東部に関する、20万分の1図、30万分の1図等の調査を行った(小林茂・鈴木涼子[東京大・院])

④2009年8月23日(日)～27(木)、京都大学文学研究科において第14回国際歴史地理学会(14th International Conference of Historical Geographers)が開催され、2件の研究発表を行った。

Kobayashi, S., Watanabe, R. and Narumi, K.: Japanese Colonial Cartography in Taiwan, Korea and Kwantung Province, 1895-1924. (24日)(本号64-68頁にアブストラクトおよびプレゼンテーション資料を掲載)

Yamachika, K., Watanabe, R. and Kobayashi, S.: The Route Maps of the Korean Peninsula drawn by Japanese Army Officers during 1880s. (26日)(本号69-70頁にアブストラクトおよびポスターを掲載)

後者は、主としてアメリカ議会図書館所蔵図によるものである。これに関連して、7月27日発表の、Yang, B. and Yang, Y.: The Korea-related Maps of the US Library of Congress.

を聞き、韓国の研究者によるアメリカ議会図書館における地図資料の調査について理解を深めた。

④2009年9月11日(金)～9月25日(金)、ワシントンのアメリカ議会図書館において、1880年代の日本人将校による中国大陸・朝鮮半島の手描き原図の調査を行った。山近久美子(防衛大)、鈴木涼子(東京大・院)、小林茂、波江彰彦が参加した。手描き原図の書誌的データをとるとともに、デジタルカメラ(Canon EOS 5D)による写真撮影を行



写真8 地図室でのデータ・カード作成と撮影作業



写真9 カフェテリアでの昼食(左から、菅井則子さん、張 敏さん、鈴木涼子さん、波江)



写真10 藤代真苗さん(右)と記念撮影(左:鈴木涼子さん、中央:山近久美子さん)

った。また、第二次世界大戦末期に日本軍が中国大陸において撮影した空中写真のスキャン作業も

行った。この調査では、藤代真苗さんや菅井則子さんなどアメリカ議会図書館の日本人スタッフにお世話になったほか、地理・地図部やアジア部のスタッフと交流を深めた(写真8・9・10)。

⑤2009年10月3日(土)、4日(日)に奈良県天理市の天理大学で朝鮮学会第60回大会が開かれ、山近久美子(防衛大)・小林茂(大阪大)が参加した。3日夕方の懇親会に出席して、関連研究者と交流を深めるほか、4日には山近・渡辺理絵(日本学術振興会特別研究員・筑波大)・小林の「広開土王碑への酒匂景信ルート の考察: 明治期陸軍将校による外邦図をてがかりに」を発表した(本号71-77頁に要旨およびプレゼンテーション資料を掲載)。武田幸男(東京大)・東潮(徳島大)・田中俊明(滋賀大)など朝鮮半島の古代史研究者に関心を持っていただいた。

⑥2009年11月6日(金)、阪神奈大学・研究機関生涯学習ネットの「公開講座フェスタ2009」の一環として(財)懐徳堂記念会が提供した講演会(場所:大阪府新別館北館、さいかくホール)で、「秘蔵されてきた軍用地図の再生をめざして: 外邦図研究の現場から」と題する講演を行った(小林茂)。年配の方々を中心とする100名ちかい聴衆があり、外邦図に関心を持っていただいた。

⑦2009年11月23日(月、勤労感謝の日)、東京都千代田区神保町区民館ひまわり館で『対外軍用秘密地図のための潜入盗測: 外邦測量・村上手帳の研究』を語る会が開催された。牛越国昭氏の『対外軍用秘密地図のための潜入盗測: 外邦測量・村上手帳の研究』(本号78-79頁参照)の刊行を記念する会で、長岡正利(日本地図センター)・小林茂が出席し、出席者に外邦図の概要を紹介する短いスピーチを行った(写真11)。

⑧2009年11月24日(火)、国立公文書館で「清國北京全圖」など初期の外邦図および「朝鮮近況記聞」(地誌)の調査を行った(小林茂)。



写真 11 牛越国昭氏のスピーチ

⑨2009年12月9日(水)～11日(金)、韓国ソウルの延世大学國學研究院を小林茂が訪問し、金裕哲教授をはじめとする同研究院の東北亜歴史地圖編纂委員会の研究者と懇談を深めるとともに、講演「近代東アジアにおける日本の地図作製：外邦測量・土地調査事業・外国製地図」(小林茂・渡辺理絵・山近久美子)、「日本参謀本部の将校の韓半島の測量過程と目測圖の特徴」(南榮佑・李虎相、ただしスピーカーは李虎相)を行った(写真12)。また小林は、朝鮮半島に関する外邦図の画像を韓国から発信する可能性について関係者に打診した。



写真 12 李虎相氏による発表

⑩2010年1月29日(金)、総合地球環境学研究所で、人間文化機構の情報資源共有化研究会(第3回)が開催された。テーマは「諸機関・諸プロジェクトにおける研究資源情報化と相互連携の可能性Ⅱ」で、5つの発表がおこなわれた。これに小林茂が

出席した。

⑪2010年3月2日(火)～22日(月)、ワシントンのアメリカ議会図書館において、1880年代の日本人将校による中国大陆・朝鮮半島の手描き原図の調査および写真撮影を行った。またメリーランド州カレッジパークのアメリカ公文書館で資料調査も実施した。田中宏巳(元防衛大)、山近久美子(防衛大)、鈴木涼子(東京大・院)、小林茂が参加した(田中・山近・小林は3月14日[日]まで)。

⑫2010年3月27日(土)～29日(月)、法政大学において日本地理学会春季学術大会が開催され、1件の研究発表を行った。

山近久美子・渡辺理絵・波江彰彦・鈴木涼子・小林茂：中国大陆における初期外邦図作製—1880年代の日本軍将校による手書き原図の調査分析から—。

⑬2009年度に刊行された外邦図関係論文など。

- 1) 渡辺理絵・山近久美子・小林茂 2009. 1880年代の日本軍将校による朝鮮半島の地図作製：アメリカ議会図書館所蔵図の検討. 地図 47(4): 1-16.
- 2) 南榮佑・渡辺理絵・山近久美子・李虎相・小林茂 2009. 朝鮮末における日本参謀本部の将校の韓半島の偵察と地図製作. 大韓地理学会誌 49(6): 761-778 (韓文).
- 3) 小林茂・山本健太 2010. 外邦図研究と外邦図デジタルアーカイブの構築. 『人間文化研究情報資源共有化研究会報告集 1』人間文化研究機構(本号 41-50 頁参照).

その他、山下和正氏(山下和正建築研究所)は外邦図について下記のエッセイを執筆された。

- 1) 山下和正 2009. 小型図紹介②威遠堡門：明治三八年(一九〇五). 季刊 Collegio (株式会社、之潮) 38: 56-59.
- 2) 山下和正 2009. 布哇配兵交通図. 地図中心 447: 26-27.

(文責：波江彰彦・小林 茂)